

●三谷水産高校実習船「愛知丸」について

問1. 神戸

本県唯一の水産科を有する三谷水産高等学校は、本県の水産業や海洋関連分野を担う人材の育成に大変重要な役割を果たしており、その教育において実習船「愛知丸」は欠かすことのできない存在であります。

新しく建造され、昨年5月に竣工した「愛知丸」については、実習環境の充実や安全面への配慮、さらには幅広い実習への活用が期待されているところであります。実は私の地元春日井からこの高校に通って、海技士免許3級を取得して、船関係会社に就職したいと頑張っている生徒さんがみえます。ところが、その愛知丸に乗って、実習に行けると張り切っていたところ、機器等の不具合により実習内容が大幅に変更され、がっかりしているとのお話を保護者の方から伺いました。当初の内容とかなり実習が変更され、このままでは免許取得に影響がないのか、心配されております。実習船を活用した学びは、水産・海洋教育において重要なものでありますが、こんなに中止や変更が重なると、生徒や保護者の皆さんも不安を感じておられるのではないかと考えます。

そこで、お伺いします。愛知丸が新しくなって、約1年どんな実習や学びをしてきたのか、その内容についてお聞かせください。

答1. (高等学校教育課担当課長)

新しい愛知丸は、船の操縦などの操船実習、エンジンなどの機関実習、無線などの通信実習以外にも、船内調理実習や海洋調査など「動く教室」として幅広く活用されております。海洋科学科では、最新の衝突予防援助レーダーを活用し、伊豆諸島沖、清水、下関、鹿児島などの港に立ち寄りながら、太平洋を中心とした約90日間の安全な長期乗船実習を行いました。また、学校ホームページから愛知丸の現在の位置情報も、確認できるようになっており、保護者にとっても安心できるシステムを搭載しています。

海洋資源科3年生では、奄美大島へ行き、海洋調査やダイビング実習を8日間実施しております。また、水産食品科の2年生では、広くなった船内調理場で船内調理の方法を学び、情報通信科においては、新「愛知丸」が完成したことにより、通信室の拡大によって、はじめて乗船実習を行うことができるようになりました。

最新機器のデータ管理が制御室で詳細に把握できるようになり、当直業務の効率化につながっております。また、水中ドローンを使用して、愛知丸の船底調査をするなど、新しい学びが可能となっております。

さらに、本科生や専攻科生用の教室が設置されたことにより、国家資格の取得に向けた学習環境を整備できたことや女子生徒用の居室が設けられるなど、居住環境の充実も図ることができております。

問2. 神戸

私が内容をお聞きしたところ、最初は4代目愛知丸の竣工が遅れて大幅な日程変更があり、出港式の何日か後に船が止まり寄港し、2日後に再出港だった。次にカツオ1本釣り実習に出たところ、冷凍装置が壊れてジギング実習に変更された。さらに濟州島に寄港するため、パスポートを取得したが、造船所の污水处理装置の基準不適合が判明したため、濟州島行は断念、カツオ1本釣り実習もできないままと伺いました。そこで伺います。現在、どのような不具合が occurring おこっており、実習にどんな影響がでているのかお尋ねします。

答2. (高等学校教育課担当課長)

昨年5月に竣工した愛知丸におきましては、今年度に入ってから、污水处理装置と魚倉用冷凍設備の2つの機器に不具合が確認されております。

污水处理装置については、本来の浄化能力を十分に発揮できず、茶色の汚水が排出されてしまう状況を踏まえ、韓国などへの入港において罰金や入港禁止のリスクがあることから、濟州への国際航海を中止いたしました。また、魚倉用冷凍設備の不具合で、大量の冷凍保管ができないため、カツオ一本釣りの漁業実習についても中止したところでございます。

問3. 神戸

もちろん、学校側からは変更のたびにお詫びの手紙が出て、「生徒の安全を第一に考え、内容を変更します。」と丁寧に書かれていますが、令和8年度に入ってから5月20日も乗船実習の日程変更、次に6月4日も日程変更と立て続けにお詫びの手紙が出ています。これだけ続けて内容が変更され、保護者の方からは学校に対して不信な思いしか湧いてこないと伺いました。本当に海技士免許を取得するための実務経験日数が足りるのか、こんなにもと変更して年間予定の航海はどうなるのか、一番知りたいのがどうしてこんなに整備不良が度々起こる

のか、と言われ、こちらも返答に困りました。

そこでお伺いします。生徒・保護者の不安の解消につながるように、どのような対応策を考えておられるのか、お聞かせください。

答3. (高等学校教育課担当課長)

教育委員会といたしましては、今回の不具合により、当初計画していた学習内容の一部に変更が生じたものと認識しておりますが、生徒の学びに支障が生じないよう、代替となる乗船機会の確保に努めているところでございます。その対策として、実習内容を見直し、国際航海を国内での乗船実習や救命講習に代替するとともに、カツオ一本釣り漁業実習を大量保管が不要なルアーを使用する漁業実習で代替しております。確認された不具合につきましては、現在、造船会社において原因調査を進めております。また、できるだけ早く修理し、予定していた生徒の実習ができるよう、造船会社と相談しながら進めております。

それを踏まえて、生徒・保護者の皆様に対しましては、実習船の不具合と学習内容の変更による学びの保障について、不安の解消につながるよう、学校を通じて丁寧な説明に努めてまいります。引き続き、生徒の安全を第一に、安心して実習に臨める環境づくりに取り組んでまいります。

<要望、神戸>

三谷水産高校は蒲郡市三谷町にあり、春日井市から通おうと思うとかなりの距離です。最初お話を伺ったときははっきり寮に入っているかと思ったら、なんと自宅から通学していると聞いて驚きました。でもそれほどまでに、この高校に入って海技士免許を取りたいと熱心に希望して入学されたのです。その希望に燃えて通っているのに、度重なる日程変更や実習内容の変更により、生徒さん自身はもちろん保護者の方々からの信頼も無くなっています。

でも、この三谷水産高校には、就職先や学校外の企業まで紹介してくださるなど、大変親身になって相談を受けてくれる素晴らしい先生がいらっしゃる、そこはしっかり強調して伝えてほしいと保護者の方が言ってみえました。

超少子化時代で、これから益々子ども数が減って、県としても定員割れの公立高校が増えてきており、だからこそ特殊性のあるカリキュラムをもった高校の需要が高まってくると考えられます。そのためにも生徒さんや保護者の方々のニーズにしっかりと答えられる学校を目指していただくことを強く要望して、質問を終わります。